令和2年度　社会福祉法人 協愛福祉会
施設自己評価表

（保育理念）
Happy+Natural
Happy+challenge

（保育目標）
げんきな子　やさしい子
がんばる子　ゆたかな子

A：よくできている　　B：わりとできている
C：一部改善が必要　　D：改善しなければならない

	内容	評価	現状・課題
保育目標について	(1)保育士一人一人が、協愛福祉会の保育理念、保育目標を理解している	C	子ども一人一人の存在と、人種を尊重し保育を行うことはできているが、子どもの主体性を大切にして保育を展開していくことが十分にできていない。 理念、目標について、言葉の理解はあるが、十分に浸透していない。保育に落とし込めていない。
	(2)子ども一人一人の主体性を大切にした保育をしている	C	
	(3)すべての子どもについて一人一人の存在と、その人種を尊重している	B	
保育について	(1)保育計画に基づき、子ども一人一人の発達の姿や興味を把握して、年間計画、月のカリキュラム、週案を立てている	B	子どもたちの興味・関心に着目し計画を立案し保育を行っているが、保育の広がりが上手くいかない現状がある。また保育の継続性にも課題がある。 子どもたちが遊び込める環境、子どもの興味・関心の見える保育室の構築ができていない。ミーティングや他施設の見学を行い改善していく。 不定期にミーティングを行っていることで各クラスの保育の共有が十分にできていない。
	(2)3歳未満児は、現在の姿を理解し、一人一人に保育計画を立てている	B	
	(3)素材・用具を適切に使用している	C	
	(4)環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫している	D	
	(5)職員間で子どもへの理解を深め、お互いの考えを十分に理解したうえで、保育を行っている	C	
	(6)1日の流れ（デイリープログラム等）は現行でよい	B	
食育について	(1)食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている	B	栄養士・保育士が連携し、意見や情報を共有しながら給食の提供ができている。アレルギーに関しても保護者と連携をとり個別に対応している。
	(2)栄養士、保育士が連携し、会議等で意見を交わしながらより良い給食になるよう努めている	A	
	(3)アレルギー疾患等の子どもに対し医師の指導の下、保護者との連携を図り適切な対応を行っている	A	
役員構成 役割分担 研修	(1)職員の仕事や役割が明確であり、それぞれの仕事を責任を持って行っている	B	外部研修への参加が少なかった。園内研修を行うも計画的には行えなかった。 キャリアアップの各分野の業務遂行がうまく行えていない。
	(2)危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が整えられている	B	
	(3)園内外の研修は計画を立て実行している	C	

		評価	現状・課題
保護者支援・情報	(1)保護者に対して、丁寧な言葉遣いと、気持ちの良い対応を心掛けている	A	保護者の気持ちに寄添い、言葉づかいに気をつけながら応対をしている。保護者からの相談事も丁寧にスピード感を持って対応している。 保護者へ対して子どもの姿、活動の様子等を発信する機会が少ない。ドキュメンテーションの活用が必要。
	(2)保護者に子どもの伸びているところや課題を伝え、連携をとっている	B	
	(3)様々な園行事を通して保護者との良好な関係を築こうとしている	B	
	(4)園だより、ドキュメンテーション、きっずノート、ホームページ等を通して、保育内容や子どもの姿や保護者への情報を発信している	C	
	(5)子どもの個人記録は、個人情報保護法に基づいて管理している	A	
	(6)職員に、園内で知り得た事柄に対しての守秘義務を周知徹底している	A	

開かれた保育園	(1)小学校と連携し、情報交換をする機会を待つ	B	コロナの影響により会議や交流会等が相次いで中止になったが、その中でも電話連絡にて連携を持ち情報交換を行った。
	(2)気になる子どもの対応について、外部の専門機関と連携をとりながら対応している	B	

子育て支援	(1)地域で子育てをしている親子の交流の場となるように努めている	D	園見学者の受入れは継続して行っており、相談事があれば丁寧に対応している。 子育て支援は行えていない。
	(2)子どもの心身の発達や育児不安について気軽に相談できるように努めている	D	
	(3)園生活の子どもの様子を地域にも発信している	D	

総合的な現状と課題

子ども主体の協同的な学びを目標に保育を行う中で、一斉保育の流れが強く、子ども主体の保育が確立できていない。子どもの興味や関心、つぶやきを拾いながら保育を行っているが、単発的な保育となっており継続した保育ができていない。また、保育環境についても、子どもたちが遊び込める環境ではない。このような現状から、職員一人ひとりが理念と4本柱について本質的な意味を理解し自分自身にしっかりと落とし込み、保育に落とし込む。そして、それぞれの想いや考え、各クラスの保育を共有するために定期的なミーティング（保育について話す機会）を行っていくことが必要。また、保育環境については、子どもたちの興味関心が見える保育室となるように、環境構成委員や園内研修、他施設の見学等を行いながら保育環境を構築していく。
このような現状から、来年度は園全体で保育環境の充実を図っていくことに加え、プロジェクト保育の実践にも力を入れて取り組んでいく。

現状の保育で満足するのではなく、できていないことを真摯に受入れ、何事もまずはやってみるという意識を持ちながら保育と向き合っていく。

園　名　　ひがし保育園　　氏名　　川村　隆晶